## ぶらり聖地巡礼の旅

# セントアンドリュースを往く

スコットランドは北海道とほぼ同じ大きさで、リンクスを中心に約600コースのゴルフ場がある。ゴルフの聖地として知られるセントアンドリュースは人口1万6000人ほどの小さな町だが、かつてはスコットランドの政治と宗教の中心でもあった。首都エジンバラからは車で1時間半ほど。

**全英オープン取材のために聖地・セントアンドリュースを訪れた本誌副編集長フクダは、多くのメディアがジョーダン・スピースや松山英樹を追いかけている中、セントアンドリュースの街を駆け回っていた。アポなし直撃取材を積み重ねて完成した“ぶらり聖地巡礼の旅”、とくとご覧あれ。**

写真◯田辺安啓（JJ）　文◯福田智生（編集部）

**副編集長 フクダ**

今年は4月のマスターズ、7月の全英オープンを現地で取材するなど海外出張の当たり年。本人は張り切っているが、家庭は大丈夫か!?

世界中のゴルファーが殺到!?

# 憧れのオールドコースでプレーするにはどうする?

まずはセントアンドリュースのオールドコースでプレーする方法について、ゴルフ専門旅行会社・ジェットアンドスポーツの加藤さんに聞いてみた。どうやらハードルはかなり高そうだが、チャンスはゼロではないようだ。

**アドバイザー**
**加藤三男さん**

ゴルフ専門旅行会社・ジェットアンドスポーツの海外事業部長。セントアンドリュース来訪歴は20回以上を数え、名門コースでのラウンド経験も豊富。

## Q.1 日本のゴルファーもプレー予約できる?

A 「市営コースなので誰でもプレーできますが、R＆Aなど15のプライベートクラブに多くの枠が割り当てられており、数少ないビジター枠に世界中から申し込みが殺到するため、かなりの狭き門です」

## Q.2 実際に予約を申し込むにはどうすれば良い?

A 「セントアンドリュースのWEBサイトから申し込めますが、抽選になる場合が多く、特に6〜9月は倍率が高いですね。全員の氏名やハンディキャップ証明書が必要で、後からメンバーの変更はできません」

## Q.3 抽選に外れた場合の次の手段は?

A 「プレー日の前日にバロットと呼ばれる現地抽選が行われる他、当日にウェイティングする方法もあります。事前予約ができなかった場合に試す価値はありますが、確実な方法ではありません」

## Q.4 比較的空いている穴場の時期はいつ?

A 「11〜3月のオフシーズンは比較的空いているので狙い目。ただし、芝保護のために人工芝のマットを携帯する必要があり、フェアウェイから打つ時は、必ずマットを敷いて打たなければなりません」



## オールドコースホテルに泊まりたい!

コースに隣接するオールドコースホテルは空きがあれば誰でも宿泊可能。料金はツインルームで1部屋6万円ぐらいから。プロショップは宿泊者以外も利用できる。ここでしか買えないグッズが多数。

Information

## 安心確実なパッケージツアーがおすすめ

事前の予約抽選に当たる確率はかなり低く、現地に長期滞在する人でなければバロットや当日ウェイティングはできない。それでもオールドコースでプレーしたい人は、プレーと往復の航空券や宿泊がセットになったツアーを利用するのが安心・確実だ。ジェットアンドスポーツでは、経験豊富な添乗員がアテンドする多彩なツアーを用意している。生涯の思い出となるラウンドを楽しんでみてはいかがだろうか。費用はシーズンオフで¥498,000〜。

問ジェットアンドスポーツ☎03-3535-5111　www.jetgolf.co.jp

全英オープンを始め海外メジャーの観戦と名門コースのプレーがセットになったツアーも用意されている。

ゴルフだけじゃありません

# ゴルファーの聖地は宗教と大学の町!

意気揚々とセントアンドリュースの町へ繰り出したものの、
下調べをしていなかったので(編集長、すいません…)、どこへ行けば良いのやら…。
ということで、まずは町の基本情報を入手することに!

まずは情報収集からスタート!

## Spot: 1 インフォメーションセンター

Information Center

町の中心部にあるインフォメーションセンターでは、観光や飲食の情報を集められる他、地図やお得なクーポンも無料配布しているので是非立ち寄りたい。

まずは聖堂に行ってみたら?

**親切丁寧に教えてくれました**

見どころを聞くと、「絶対に外せないのは聖堂ね。トム・モリスのお墓もあるわよ。近くに城や大学もあるから行ってみて!」と教えてくれたスタッフの皆さん。ありがとうございます。

### ノスタルジックな町並みに癒される

ゴルファーにとってのセントアンドリュースは、やはりオールドコースであり、全英オープンだろう。それだけに、普段はあまり取り上げられることがない町について知りたくなった。ゴルファーの聖地は、いったいどんな場所なのか。

まずは、インフォメーションセンターで情報収集をスタート。色々話を聞いてみると、かつてはスコットランドにおける政治と宗教の中心だったとのこと。その面影は、町の南にある「セントアンドリュース聖堂」や「セントアンドリュース城」に見ることができる。

そして、スコットランドで最も古い歴史をもつ「セントアンドリュース大学」は、町の象徴といってもいい存在だ。何しろ、人口1万600人に対して、世界中からやってくる留学生は7000人に上るというのだから驚かされる。

オールドコースまで見渡せます!

## Spot: 2 セントアンドリュース聖堂

St.Andrews Cathedral

14世紀に建造されたが、16世紀の宗教改革で破壊され、今は聖堂の壁や一部の門、塔が残るのみ。塔は有料で内部の階段を上れる。頂上からの眺めは最高!

おおっ!やっと着いたぞ!

敷地内は市民墓地になっており、伝説のゴルファーとして歴史に名を残すトム・モリスのお墓もある。これを詣でずして、ゴルファーと呼べようか!

荒廃した雰囲気が旅情を誘う

## Spot: 3 セントアンドリュース城

St.Andrews Castle

イングランドの侵攻によって破壊され、現在は建物の一部だけが残っている。その静かな佇まいに、映画『天空の城ラピュタ』を思い出してしまった。

スコットランド最古の名門大学

## Spot: 4 セントアンドリュース大学

University of St.Andrews

600年以上の歴史を誇る、スコットランド最初の大学。英国王室のウィリアム王子とキャサリン妃の母校としても知られ、縁結びスポットとしても人気だとか。

併設のミュージアムには歴史的に貴重な品々が展示されており、大学はもちろん、セントアンドリュースの歴史を学べる。

町の中心部には大学のショップがあり、ロゴ入りウエアなどを販売している。お土産にパーカーをGET!

ちなみに、ここまでの移動はすべて徒歩。小さな町であるセントアンドリュースは、端から端まで歩いても30分かからない。途中のパブで一杯やることを考えても、車移動より徒歩の方が何かと都合が良いのだ。機材を担いだカメラマンはやや不満げだが、ノスタルジックな町並みを歩いているだけでも、気分が癒されるから不思議だ。

すると、大学近くでウィリアム王子とキャサリン妃が会っていたというカフェ「ノースポイント」を発見。店内に入り、スムージーを注文。すると、隣席の学生が話しかけてきた。日本から来たことを告げると、とてもおいしいチーズショップがあると教えてくれた。次の目的地は決まった。さあ、出発だ。

名物はコーヒーですが…

## Spot: 5 ノースポイント

North Point

セントアンドリュース大学近くにあるカフェ。学生の来店が多く、ウィリアム王子とキャサリン妃も、ここでコーヒーを飲みながらデートを重ねたそう。

ストロベリー、パイナップル、ココナッツが入ったスムージー「カリビアンブリーズ」をいただきました!

Column

ゴルフの歴史が詰まってます!

## 英国ゴルフミュージアム

British Golf Museum

オールドコースのすぐ近くにある博物館。ゴルフの発祥から現在に至るまでのクラブやボール、ウエア、さらには歴代のスター選手達の展示などがあり、ゴルフの歴史や進化がよく分かる。最近改装されて、きれいになった。

# 運命的な出会いが待っていました!

ロコミ情報を頼りに町を歩き回る取材班(二人だけど)。
絶品のチーズや美男美女との出会いにテンションマックスな我々を待っていたのは、
ゴルフの聖地で唯一のクラブメーカーだった。

Spot: 6

イートインもテイクアウトもOK

## オールドチーズショップ

The Old Cheese Shop

陽気な夫婦が営むチーズ専門店。コンテストで世界一に輝いたこともあるドイツのブルーチーズ「モンタニオロ」はくせになる絶品の味。お土産にもおすすめ。

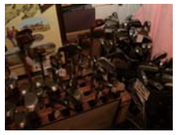
Spot: 7

知る人ぞ知るゴルフショップ

## ハッピーハッカー

The Happy Hacker

パーシモンやヒッコリーのクラシッククラブから絵画、オールドコースグッズまで、マニアも納得の品揃えで「ゴルファーの皆さんをお待ちしています!」とのこと。



### ロコミからロコミで聖地巡礼の旅は続く

勧められた「オールドチーズショップ」で絶品チーズを食した後は、同じ建物の2階に偶然発見したゴルフショップ「ハッピーハッカー」でお土産を物色。ここで、古いゴルフクラブの工場を改装したレストランがあると聞き、その「フォーガンズ」へ。梁や天井に工場の名残を残す店でセントアンドリュースの地ビールを発見し、蒸留所の場所を教えてもらって車で移動。今度はそこで、アルバイトの女性からスコットランド最古のゴルフメーカーがあることを聞きつけた。旅は続く。

Spot: 8

カモやアヒルの肉料理に自信アリ!

## フォーガンズ

Forgan's

1900年代初期のゴルフメーカー「ロバート・フォーガン」の工場を改装したお洒落なレストラン。毎週金曜日の夜には店内でダンスショーが行われる。

Spot: 9

セントアンドリュースの地ビールをどうぞ

## イーデンミル

EDEN MILL

ヒッコリー風味のジンや飲みやすいゴルフペールエールが人気の蒸留所。ここで購入できる他、町の飲食店などで飲むことができる。

Spot: 10

スコットランド唯一のゴルフメーカー

## セントアンドリュースゴルフカンパニー

St.Andrews Golf Company

1881年創業の歴史あるゴルフメーカー。同じく老舗だったジョージニコルやトムスチュワートなどを加え、40年前には50社前後あったスコットランドのゴルフメーカーの中で唯一の存在となった。レトロなヒッコリークラブやガタパーチャボールなどの開発を主とするが、機能性に優れた近代的なクラブの開発も手掛けており、ファクトリーにはフィッティングスペースも。

### ヒッコリーの生産技術をじっくり見学しよう

セントアンドリュース最古にして、現存する唯一のゴルフメーカーである「セントアンドリュースゴルフカンパニー」は、町から南西に5マイルほどのラーガワードという所にあった。

今なお、ヘッドもシャフトも木製のヒッコリーのゴルフクラブを生産しており、かつては球聖といわれたボビー・ジョーンズのクラブも手掛けていたというから驚きだ。その技術を継承するクラフトマン達が、伝統的な材料や製法でクラブを作り続けている。

こちらもアポなしで工房を訪れたのだが、設備やクラブについて詳しく説明してくれた。これは雑誌の取材だからというわけではなく、見学はウェルカムで製造の実演なども行っているというから、興味のある人は是非訪れてみてほしい。

ちなみに、セントアンドリュースオールドコースの近くにはショップもあり、クラブやグッズなどを購入することができる。工房まで行く時間がない人は、そちらを利用するのもお勧めだ。

世界中のヴィンテージクラブプレーヤーやコレクターの要望に応え、ヒッコリーなどの伝統的なクラブを一本一本手作りで製作し続けている。

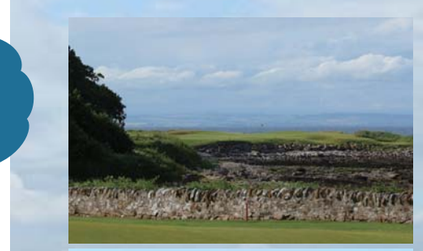
ファクトリー内にはレトロなクラブやボールが所狭しと並んでおり、まるで博物館のようだが、すべて販売しているもの。世界中から注文があるという。しかも、ちゃんとプレー可能なのがすごい。ここは伝統的なニッカポッカスタイルで楽しみたい。

世界トップクラスの名リンクス

# Spot: 11 キングスバーンズゴルフリンクス

Kingsbarns Golf Links

1793年に開場後、1850年ごろに閉場して農地となったが、2000年にモダンなリンクスとして生まれ変わり再オープンした。以来、アルフレッド・ダンヒル選手権を開催するなど、スコットランドを代表するコースとして認められている。



18H/PAR72/7210Y
http://www.kingsbarns.com/

突然の訪問にもかかわらず、快く迎え入れてくれたゴルフ場のスタッフ。ホールの特徴を熱っぽく語るその口調からは“キングスバーンズ愛”を感じた。

## キングスバーンズでちょっと寄り道

セントアンドリュースから南へ30分ほど車を走らせたアンストラザーという小さな港町に、イギリスで行われているフィッシュ&チップスの全国大会で優勝したお店があると聞き、足を運ぶことにした。

その途中、2017年に全英女子オープンを開催予定のキングスバーンズゴルフリンクスを見つけ、立ち寄ることに。突然の訪問にもかかわらず快く迎えてくれたばかりか、カートでコース内を案内してくれるという。いやー、行ってみるもんだ。

セントアンドリュースとは違った美しさと雄大さをもったコースは、間違いなく世界トップクラス。次回は、プレーヤーとして再訪することを誓った我々に耳寄りな情報が。

このコースの元キャディが、近くでスコッチの蒸留所を始めたという。スコッチ経由フィッシュアンドチップス行き、決定！

北海を望むなだらかな丘に広がるコースの中で、クラブハウスは一番の高台にある。そのため眼下に広がる美しいコースを見渡すことができる、絶好のビューポイントにもなっている。



ゴルフ場の元キャディが開設

# Spot: 12 キングスバーンズ蒸留所

Kingsbarns Distillery

キングスバーンズゴルフリンクスでプロキャディとして働いていたダグラス・クレメント氏が、訪れる多くのゴルファーが「この近くにスコッチの蒸留所があれば…」と話しているのをヒントに、事業を立ち上げ、昨年11月に完成させた。蒸留所にはオーク樽で熟成されていくスコッチの芳醇な香りが漂う。シングルの腕前であるダグラス氏にキングスバーンズの攻略法を伝授してもらうのもアリ!?

キャディだから思いついたんです！

ショップで販売されているのは、グループの蒸留所で造られたもの。テイスティングもできる。

古い農家を改装した蒸留所だが、製造プラントの設備はすべてステンレス・スチール製で近代的だ。ビジターセンターがあり、もちろん観光客も見学できる。

世界一のフィッシュアンドチップスを提供

# Spot: 13 アンストラザーフィッシュバー

Anstruther Fish Bar

世界で最もおいしいフィッシュアンドチップスが食べられるお店として知られ、ウィリアム王子やハリウッドスターもよく訪れるという人気店で、時間帯によっては行列ができる。

外はサクサク、中はフワフワで塩加減も抜群。見た目のボリュームはあるが、ペロッといける。

店内には優勝トロフィーが！

帰り際に、ドライビングレンジの横に設置された看板を発見。それによると、2016年5月にR＆Aのテストセンターができるとのこと。その存在がコースの価値をさらに高めることだろう。